

立江川の保全活動 子どもたちがフナの稚魚を放流

3月4日、立江幼稚園、立江保育所、立江小学校の子どもたち41名が市立体育館横の立江川にフナの稚魚約4千匹を放流しました。この取組みは、小松島淡水漁業協同組合が環境教育や環境保全活動の一環として毎年企画しているものです。

子どもたちは、バケツに入った体長15センチメートルほどのフナの稚魚を川へ流し、魚とのふれあいを楽しみながら、古里の自然を大切にすることを育んでいました。



立江川でフナを放流する子どもたち

高校生が考えた二条通り商店街の再生案 建築甲子園で全国優勝



大正館なつ家で行われたまちの駅のオープンイベントで、建築甲子園で全国優勝した作品を発表する高校生（左から岡島汐音さん、安丸和来さん、井口奨也さん）

全国の高校生が建築のアイデアを競う「建築甲子園」で、小松島町の二条通り商店街の再生案を考えた徳島科学技術高等学校のチームが全国優勝しました。

メンバーは同校建築コース3年生（受賞当時）の岡島汐音さん（小松島市出身）、安丸和来さん、井口奨也さん、宮本茉奈さん（3人は市外出身）の4人で、全国優勝は四国で初めての快挙です。

2015年に行われた第6回建築甲子園は「地域のくらしー空き家を活かすー」をテーマに作品を募り、全国71校から応募総数120点が集まりました。

4人が考えたのは、空き店舗などが増え、人通りが少なくなってしまう二条通りを再生するためのまちづくり構想です。空き店舗や空き家に小松島特産のハモを活かした水産研究施設やハモスイーツ店、ハモバーガー店、寿司屋、カフェやレストランなどを配置する設計を考案し、約2,500分の1の模型と図面を作成しました。

完成した作品は「つながり うまれた ものがたり二条通りで『ハモトーク』」と題し、水産研究員や商店街の店主、買い物客らが行き交い、会話（トーク）が街全体に広がり、にぎわいが生まれていく未来が描かれています。

二条通りの大正館なつ家が まちの駅としてオープン



まちの駅のオープンに訪れた大勢の市民

小松島町の二条通りにある大正館なつ家が3月19日、県内初の「まちの駅」としてオープンしました。まちの駅は、トイレなどの休憩機能や観光情報などの案内機能を備えた施設として、全国まちの駅連絡協議会が認定するものです。

同施設を運営する一般社団法人CS阿波地域再生まちづくりは、平成27年度に市の中心市街地交流拠点整備事業補助金を活用し、同施設の裏庭にウッドデッキなどの交流スペースを整備しました。以前から行っていたカフェも営業しながら、今後は、住民や観光客が自由に立ち寄って休憩できる施設となり、また、NPO法人小松島市観光ボランティアガイド協力会と連携した観光案内なども行われる予定です。

まちの駅のオープン当日は記念イベントが開かれ、濱田市長など関係者がテープカットを行い、訪れた大勢の市民らに記念品が配られました。また、建築甲子園で全国優勝した徳島科学技術高等学校の生徒による二条通り商店街の再生案の発表会も行われました。

本市では、中心市街地のにぎわい創出などを図るため、平成27年度に中心市街地の交流拠点を整備する方や空き店舗を改装して創業する方に補助を行い、交流拠点整備補助が2件、空き店舗対策補助が3件ありました。今後も引き続き補助制度による支援を実施するなど、中心市街地の活性化に取り組んでいきます。